

あたたかや石の上にも三年目暖かや南隣といふ言葉  
 わが先祖代々の墓暖かしカーテンのゆるることさへ暖かし  
 息をして生きてゐる人あたたかし暖かや一輪挿しに花増やす  
 哺乳類に哺乳瓶あり暖かし暖かや手ぶらで近所うろうろと  
 暖かや手帖に挟む子の写真暖かや各地の天気聞くことも  
 暖かや赤子の爪の桜色暖かや予定に満ちて予定表  
 暖かに貰はれてゆく産着かな足し算はもらつてばかりあたたかし  
 泣く子ゐてあやす子がゐて暖かしあたたかや円に近づく多角形  
 暖かや前歯ぐらぐら男の子日本語は母音の言葉あたたかし  
 暖かや前歯の欠けし女の子うんちして笑ふ赤ちゃん暖かし



リードエッセ

2020年4月17日

2021 全然堂歳時記 春【春】 20句

2021年3月26日発 10行2段12ポ桐9

春といふだけで良いことありさうな スキップで春の体が飛んでくる  
明暗の春よ根を張り芽を伸ばし スプリング・ハズ・カム三色ボールペン  
春はまだ氷の解けし冷たさに行楽や家族の春も瞬く間  
ふかぶかと春の大地を踏みしめて 妙齡の箸が転げて春の旅  
蝶飛んで百花の春となりにけり みちのくの奥へ奥へと春の旅  
青年は清と申す伊予の春 春なれや花なき枝のゆるるさへ  
土手に寝て春の証の腕まくり 春なれや昨日の荅けふの花  
め手に嬰ゆん手に荷物春忙し ゆつくりと春の天気の下り坂  
幼子がめちやくちや歌ふ春の歌 春かなし下駄箱の名札みな剥がされ  
大輪や春爛漫の観覧車 足湯して余生の春といふべしや



はる

モ ニード、エ、ピ、  
2021.3.26

全然堂歳時記春【春の風】

20句

2022年3月13日発 10行2段14ポ桐9

古き良きものこそ大事春の風在校生にも春風の吹き渡れ  
山門に仁王怒れる春の風春風と別れて入る美術館  
春風が吹いて明るくなりにつけり春風の蝶々むすび花むすび  
ひらかなのふところ丸く春の風春に吹く風は花びら運ぶ風  
朝も早よから春風の蜜柑山大陸の砂を巻き上げ春の風  
春風も驚く凧の高さなり番号の若きは荒るる春の風  
春風にそれは巨大な風車春風の今日の激しさポリバケツ  
山よりも丘に親しき春の風春風に冷たくされてゐたりけり  
春風に兎の耳の赤ん坊春風を吐いて練習ゴジラの子  
春風のやうな幼子春の風七人の侍さらば春の風



春風はお好みで  
はるかぜ・  
シユンプウ

春風は  
ハード  
ゴジラ

2022  
3.13

全然堂歳時記春【花の雨】

20句

2022年4月7日発 10行2段14ポ桐9

弓なりに傘を開けば花の雨さびしさにネオン灯せり花の雨  
滑り台たらたら花の雨流る朝も昼も夜も止まざる花の雨  
花の雨ながるる水となつてゐし花の雨しんから冷えてしまひけり  
花の雨つひにぬかるみ始めたる 銭湯に人なつかしや花の雨  
花の雨ぬれて鴉の重たけれ花のあめ花にくるひて夜もすがら  
花の雨に風加はりて強まりて花の雨生きて売らるる貝の山  
下水へと真つ逆さまや花の雨花の雨秘伝のたれに足す味醂  
夜にかけて雷といふ花の雨蓋あけて天井匂ふ花の雨  
花の雨巫女は着替へて帰りけり クリームかチョコかと迷ふ花の雨  
花の雨花の都に早くも灯あたたかき涙つめたき花の雨



はなのあめ

モ  
ハー  
ド  
エ  
ッ  
ジ

2022  
4.7

命とは息吹き入るる石鹼玉 友達と吹いて綺麗な石鹼玉  
丸ごとの光なりけり石鹼玉 石鹼玉吹くや子猫が目を丸う  
震へつつ風に乗りけり石鹼玉 二階から吹けば遠くへ石鹼玉  
淡々と流るる色も石鹼玉 土手に来て吹くや大きな石鹼玉  
濡衣の即ち裸身石鹼玉 舐めてみて辛くて苦し石鹼玉  
石鹼玉丸く飴玉甘くかな 石鹼玉天にも地にも触れず消ゆ  
惑星の如く大きく石鹼玉 しゃぼん玉わつて天使の楽しけれ  
石鹼玉宇宙旅行のお土産に 崩れたる積木割れたる石鹼玉  
姉ちゃんのを学校を待つ石鹼玉 多作なる虚子の一生石鹼玉  
姉妹で吹いて二人の石鹼玉 アンコールまたアンコール石鹼玉

モ  
ハンドエ、ジ2018  
3.4

すかすかやジャングルジムもぶらんこも ぶらんこが名残を惜しむかに揺れて  
 ぶらんこの斜に構へし支柱なり ぶらんこで待つ約束を忘れしや  
 梯子してぶらんこに差す潤滑油 ぶらんこも代替りせし母校かな  
 ぶらんこの搭乗員の列に付く 明日は遠足ぶらんこを漕ぎに漕ぐ  
 どの子乗せても一幅の鞆 三保の松原ぶらんこ吊つてみたきかな  
 綱電車ぶらんこ前を出発す ぶらんこにゆるる一反木綿なり  
 全員で漕げばぶらんこ空を飛ぶ 熟田津の鞆に乗り漕ぎ出でな  
 ぶらんこの引力圏を脱すべく 真夜中のぶらんこ漕ぐはかぐや姫  
 ぶらんこのもう十回をも一回 ぶらんこで呼べば流星号来る  
 ぶらんこに乗って転校して行きぬ ぶらんこは蒙古チューインガムはマヤ



peace



ぶらんこの漢語  
鞆 〓 しゅうせん  
を含む

モ ハートフル

2022 4.22

2023 全然堂歳時記 春【風】 20句

2023年3月11日発 10行2段12ポ桐10

二人しておむすび持つて風揚に 風揚の数多の風の同じ向き  
風の子に風々あがれあがれかし 引けど引けど糸の湾曲いかのぼり  
追風に反抗的な風高し 取り外す如くに風を手繰り寄せ  
風揚げて歌ふ雲雀を驚かす 切れ風の糸おほらかにただよへる  
遊びつつ高く遠くへ風と風糸切れて風の落ちゆく春の川  
雲白く風と遊んでまた明日 木の枝の風を見上げてゐる子かな  
湖のまん中に風あげてみん 木に懸る風に愁ひを鴟の贅  
つつんと天につつかへ風 風揚げし友よ団地の屋上よ  
風揚や廻る地球に浮き上り ゆふぐれのさびしさに風つれかへる  
風揚や大気圏内よく晴れて 沖をゆく幼子たちの風高し



peace!



たこ  
いかのぼり

モ  
ハードコア  
2023  
3.11

卒業や今日も堤を自転車で青空に強き風あり卒業す  
リボンして伴奏の子や卒業歌川原いま若草色に卒業歌  
B面は白紙卒業証書かな卒業や土手の斜面をごろごろと  
チューブから出る色々や卒業す歌ふべし我らが雨の卒業歌  
卒業の子らが来てゐる保健室いつの間に晴れし卒業式の午後  
下駄箱の前にいくたり卒業子四つ角に卒業生の別れかな  
去るものは追はず卒業式終るゆふぐれの町をさまよふ卒業子  
卒業式終へてがらんとしてゐたる忘れ得ぬことぞ悲しき卒業歌



ハードエンジニア

2019  
3  
28



2019 全然堂歳時記 春 【苗札】 14句

2019年3月23日 17:18 7行2段12ポ 桐9

苗札の他は何にもなかりけり水やりの苗札に差す朝日かな  
希望とは苗札に書く花の名か苗札の予告通りに芽吹きたる  
「あさがお」のあの字大きく苗札にあどけなき芽に苗札の後盾  
苗札も漢字混りや二年生苗札に怪しき猫が近付きぬ  
苗札に大きくなれと書いてある風よけの苗札として刺し直す  
苗札を読んでなるほどなるほどと苗札の影くつきりと良い天気  
今日もまた苗札の辺に水をやり苗札に立待月の思ひあり



2019年3月23日

全然堂歳時記春

【雛納め】

20句

2022年3月5日発 10行2段14ポ桐9

雛納め亀鳴くころと思ひつつ 雛の夜のつひには雛を納むる夜  
 古き良き軽き木箱や雛納め 白無垢の明日は別れの紙雛  
 沐浴も叶はぬ雛を納めけり 雪解の水の冷たき雛流し  
 くらやみの箱を重ねて雛納め 神主が風にはたはた雛流し  
 畳むべき雛毛氈の大いなる 雛流し色あるものもなきものも  
 雛納め木の階段の現はるる 流れ行く雛に持たせし桜貝  
 残りたるあらは鯉に雛納め 雛流し鯛や鯉の海へかな  
 桃の花卓に散りゆく雛納め 雛を積みし舟の引きずる千羽鶴  
 花はまだ硬き蕾や雛納め 雛流し時の流れのなかにな  
 雛納め子の折紙を入れてやる 雛納め芦屋の人を悼みつつ



ひなおさめ

※雛流しを

含む

モートエッジ

2022 3.5

2021 全然堂歳時記 春

【雛祭】

18句

2021年3月3日 発

9行2段12ボ桐9

早う雛飾れといふにうちはうちひとり子のひとり歌ふや雛の灯  
紐解いて蓋開けて雛飾りけり男の子雛の家に来りけり  
雛壇を急勾配と思ひつつ年玉で買ひしトランプひな祭  
母と娘の砦の如し雛飾る背が伸びて細き手足や雛祭  
新聞も三月三日ひなまつり細やかに刻んで雛に奉る  
ほほゑみに触れて冷たき雛かな雛壇は赤くプリンは黄色なり  
雛道具時の流れの忘れもの湯あがりの子らがほかほか雛まつり  
雛の灯に子の宝物ありつたけ高階に月の射し入る雛かな  
着飾りて小さな人のひな祭雛の間のひと夜ひと夜の桃の花



ひなまつり

春  
ハニハニ  
2021  
3月3日

桃活けて雛はあらねどある如し雛壇の紅垂るる畳かな  
壺の棒壺の臍へと雛の段雛壇の前でくるりとランドセル  
雛壇の板子一枚下の闇鳴く鳥の声も色々雛あられ  
蔵出しの箱出しの雛飾るなりその色の淡く明るく雛あられ  
雛飾る人美しや雛祭炬燵にも分けてもらひし雛あられ  
雛飾り終へて縁側眩しけれ女良しと書いて娘や雛祭  
階を仮の御殿に雛飾る暖かな雨に眠たき雛かな  
雛は赤に仏は金に座し給ふ雛の間を鬼より守る燭二塔  
人去りて三人官女なに話そ雛の灯に早も二月の終りかな  
砂時計雛調度にはあらざるも眠られよ雛を飾りしままなれど



ひなまつり  
※雛あられを  
含む

ハードエッジ

2022  
3.3

2023 全然堂歳時記 春

【雛祭3】

20句

2023年3月3日発

10行2段12ポ桐10

ケーキあり紅茶も淹れて雛飾ろ 寒山も拾得も来よ雛祭  
色紙で折り色紙にも描き雛飾る 長靴で泥濘を来し雛の客  
毛氈はおひさまの色おひなさま 雛壇に背を向けて撮る写真かな  
雛壇に金の屏風の赤々と 雛の夜に赤く大きな金目鯛  
享保雛天井の灯を訝しむ 雛の間の燭が倒れて恐ろしや  
就中雛の部屋の春燈 この雛を共に飾りし昔かな  
雛壇の前に広げしおままごと 雛飾る人の老いゆく不思議かな  
着飾りてエプロン白く雛料理 雛壇の秘めし階段状の闇  
ひとり子の母と飾りし雛祭 頭だけ替へる剃刀雛の夜  
雛様に珈琲苦し我が飲む 街も家も雛も一夜の焼夷弾



peace!



雛祭 〓 ひなまつり  
雛壇 〓 ひなだん

毛

ハードエッジ

2023.3.3

Hi-un 108

全然堂歳時記春【遠足】

20句

2022年4月14日発 10行2段12ポ桐9

遠足のなんと小さな頭数 遠足のおしやべり止めば歌ふなり  
遠足の小学校のがらんどう ころころと誰が遠足のおむすびぞ  
遠足の列に入つてみたきかな 遠足に解けて悲しやチョコレート  
遠足や我らが町の天守閣 遠足やキリンの首と象の鼻  
遠足のバスがかの山かの川へ 年々歳々奈良遠足の教師たり  
遠足や我家の見ゆる丘の上 遠足で奈良を出てゆく奈良の子ら  
遠足の子らを満載春の山 遠足で別の小学校に会ふ  
遠足の新型バスがびつかびか 脛に傷貰つて帰る遠足子  
遠足のバスを連ねて海を見に まだ見ゆる遠足の子ら山下る  
遠足に原寸大の富士の山 遠足後「バックオーライ」流行りけり



peace



モートドコジ

2022  
4.14

2019 全然堂歳時記春 【花篝】 17句

2019年3月17日12:09

10行2段12ボ桐9

燃えて立つ鋼の足の花篝崩れては火屑こぼしぬ花篝  
をりからの風にあふられ花篝花篝いのち短し恋せよと  
花びらの飛んで火に入る花篝雨雲か日暮の雲か花篝  
ひらひらと花びらもゆる花篝すべもなく雨にうたる花篝  
音がして火花は空へ花篝北国の夜風冷たし花篝  
花篝火花に贅を尽したるまた一つ消えて最後の花篝  
山奥に人こそ知らね花篝花篝消えて夜明の石畳  
関の声あげよ無頼の花篝  
しろあとに城あるごとし花篝  
花篝がさりと夜はふけにけり

花篝がさりと

夜はふけにけり



毛

ニードエフジ

2019  
3  
17

2023 全然堂歳時記 春

【涅槃会】

20句

2023年2月15日発

10行2段12ポ 桐10

復活を説かず寝釈迦の大きいなる 涅槃図に最員の菩薩ありにけり  
ふる雪にお涅槃の寺ま白なり 天井に届く悲しみ涅槃絵図  
花にまだ間のある寝釈迦やすらかに 涅槃図の剥落をわが掌  
轉を聞きつ寝釈迦は金色に 涅槃図の猫描きたるはその弟子か  
寝返りのこちら向きなる寝釈迦かな 涅槃図の涙ながらに褪せゆくも  
沈黙の寝釈迦は金齒かもしれぬ お涅槃や唐天竺も月を上げ  
ひねもすの眠りの猫や涅槃像 涅槃図に光を当てて撮影す  
犍陀多のはかなかりしを寝釈迦かな お涅槃や方程式に解ふたつ  
涅槃会の白妙の飯粒の数 お涅槃や黒板拭に文字の屑  
するすると紐引き上げて涅槃絵図 お涅槃を過ぎて仏生会も近し

peace!



涅槃会 ねはんえ  
寝釈迦 ねしやくか

モートロジック  
2023  
2.15



2018 全然堂歳時記春【轉り】take-10 15句

2018年3月16日15:40

10行2段桐9

青空を胸一杯に轉るよ新しき巢箱の屋根に轉るよ  
かの鳥のバリカン頭さへづれり美しやこの轉も鳥籠も  
飛ぶ鳥の鋭き嘴の轉れり轉の色とりどりの故郷かな  
轉や黄の嘴を誇らかに古寺の朽ち行くままに轉れり  
息堰を切つて激しく轉れり轉の何処かへ行つて仕舞ひけり  
轉に胸の間へはなかるべし  
轉は飛沫の如し浴びてをる  
轉や耳うつくしく開かるる  
轉の中に風船あがりけり  
轉や永遠の寝釈迦の黄金色



2018  
3.16

2023 全然堂歳時記 春【蝌蚪】 18句

2023年4月17日発 9行2段12ポ 桐10

げつそりと産み終りたる蝌蚪の紐 水遁の術でどろんと蝌蚪に化け  
ぬるみたる水にぬるりと蝌蚪の紐 賑ひの静かなるかな蝌蚪の池  
つぶらなるものを連ねて蝌蚪の紐 月夜の晩ばかりじやないぞ蝌蚪に足  
蝌蚪の紐やがては解る蛙の子 生えてくる手足恐ろし蝌蚪の池  
幼くてお玉と呼ばれ蛙の子 手も足も生えて角なき蝌蚪の果  
大いなる頭のお玉杓子なり 大方は食はるる蝌蚪と思へども  
目口鼻まるく収めて蝌蚪の顔 いつの間に蛇の来てゐる蝌蚪の池  
蝌蚪はまだ黒装束の修行の身 幼きが幼きを食ふ蝌蚪の乱  
尾骶骨あれば仲間ぞ蝌蚪と人 蝌蚪を食ひ蝌蚪にあらざるもの太る



peace!



おたまじゃくしの  
漢語が蝌蚪かど

モハートエ、び  
2023 4 17

Hi-uni 10B

2019 全然堂歳時記春 【猫の子】 20句

2019年4月20日07:14

10行2段12ボ桐9

白金も黄金もいとし猫の子も猫の子の誕生日なり花かつを  
猫の子の寝ても覚めても可愛らしもつれては解けては子猫仲の良き  
闘ふや子猫こつくりこつくりと花衣脱ぐや子猫を追ひやつて  
母と子の髭むつまじく猫眠る猫の子の散らかつてある部屋の中  
夢の世の子猫よ眠れ母のそば猫の子に鈴もリボンも買はぬまま  
舐められて子猫うれしや裏返る親元を早も離るる子猫かな  
青い目は魔法使の子猫とも猫の子と雨音を聞く日曜日  
春たのし子猫の鼻も桜色猫の子に玩具にされて食はれけり  
咆哮の如し子猫の大欠伸たんぽぽや子猫を囲む下校の子  
猫の子に何かいいことありさうな噛み抱くは子猫の頃の古毛布



ねこのこ

も ニートンズ 2019 4.20

2023 全然堂歳時記 春

【猫の子2】

20句

2023年3月31日発

10行2段12ポ 桐10

あるだけで人も子猫も幸せに 子猫見に来いの誘ひは受くべきや  
土手ゆけば子猫の見ゆるバルコニー 鳴いてゐる子猫ありけり橋の下  
猫の子を膝に世界を牛耳る日 捨てられし子猫に神の見えざる手  
母強しひよいと子猫を啜へては 猫の子の噂たちまち組中に  
鈴生りの子猫に乳房ふくませて 猫の子の黄昏どきを鳴く声ぞ  
味見するやうに子猫を舐めてをる 鳴いて済む話でもなし捨て子猫  
あくびなら子猫も負けてをらざりし 運命を子猫に委ねられにけり  
四つ足におまけの尾ある子猫かな これがあの子猫なりしや膝に来て  
ドライヤーかけて子猫をふくらます 老猫は子猫の夢を見るならむ  
座布団の子猫お行儀よくして「ね」 もう一度子猫に生れ会ひに来よ



peace!



ねの字は猫の  
象形文字かも



ハードコピー  
2023.3.31

Hi-uh1 10B

2022 全然堂歳時記春

【落椿】

20句

2022年5月4日発

10行2段12ポ桐9

石段に朝日を待てる落椿 大悪人虚子の足下の落椿  
うつとりと雲雀を聞きつ椿落つ 落椿赤くひよこはぴよぴよと  
一つ落ち又一つ落椿かな猫の子を驚かしたる落椿  
産み捨ての多産系なる椿の木緑濃き中を最後の落椿  
当り籤出るまで椿落ち続く 落椿踏み行くと意を決しけり  
落ち延びて日向に出でし落椿 暗闇の積りて赤き落椿  
断崖を削る楽しみ落椿 錆たるも黒ずみたるも落椿  
落椿海に落ちなば塩辛き 金粉はまだたつぷりと落椿  
落椿みな尻子玉抜かれけり 土かぶせ見えなくなりぬ落椿  
うつ伏せに火の山赤し落椿 この庭のここ十年の落椿



peace



おちつばき

モ

トリートエイジ

2022  
5.4

2023 全然堂歳時記 春【梅】 20句

2023年2月26日発 10行2段12ポ桐10

白梅の硬き蕾の香なりけり 巫女赤く神主白く梅みごろ  
かたくなに蕾を解かぬ梅もやや 紅白に城址公園梅咲けり  
白梅の蕾に薄きみどりいろ 紅白の香り違へて梅の園  
太宰府や都の梅に遠くとも ひとつもとのそれは見事な梅屋敷  
白梅の白を苛む雪が亦今年はや 娘十八むめの花  
白梅を揚げば我の息白し 思ふまま曲りし梅や松もある  
白梅や若き外科医の徹夜明け 梅園の土柔かに踏み荒らす  
朝食のホテルより見る梅の寺 梅園の入口に売る苗木かな  
古き枝に新しき枝に梅真白 梅が香やコンクリートの打ち放し  
勝ち誇る白に紅梅咲き初むる 白梅の末は梅酒か梅干か



peace!



梅<sub>ハ</sub>うめ  
白梅<sub>ハ</sub>はくばい

モ  
ハードエッセ  
2023  
2.26

20 20 全然堂歳時記春 【蒨の薑】

12句

2020年2月8日発 6行2段12ボ桐9

春はまだ熊の欠伸と蒨の薑 紫に臙脂に蒨の薑 つつまれ  
土を出て雪を解かして蒨の薑 さ緑のほろりと苦し蒨の薑  
雪解の土の色濃し蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑  
落葉みな土に帰しゆく蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑  
名草の芽よりも先駆け蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑  
小さき葉に小さく包まれ蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑 蒨の薑



ふきのとう  
蒨味噌を含む

2020年2月8日  
ハートエッセンス

2023 全然堂歳時記春

【蒲公英1】

20句

2023年2月23日発

10行2段12ボ桐10

一面に蒲公英の黄のぽぽぽぽ 蒲公英や分厚きものに防波堤  
蒲公英や太陽に幸多かれと 蒲公英や鰯が干されてその日陰  
蒲公英は向日葵の黄を知らねども 蒲公英を咲かせてみたき滑走路  
蒲公英を少しちやほやしてやりぬ 蒲公英や通勤電車数珠つなぎ  
故郷に董・蒲公英・紫雲英かな たんぽぽや線路の砂利の錆びついて  
たんぽぽもお地藏さまも背の低き 中庭に蒲公英の咲く裁判所  
蒲公英も紫雲英も読めぬ子が遊ぶ 蒲公英や冬を越したる空店舗  
たんぽぽに地味な雀の来りけり 蒲公英に地べたの冷ゆる夜なりけり  
蒲公英に土龍の土の真つ黒な 蒲公英の絮スカート風の飛ぶ  
たんぽぽや切株はまだ新しき 蒲公英の絮に全てを託しけり



たんぽぽ

ハードエッジ

2023 2.23

Hi-uni 10B



2023 全然堂歳時記 春

【蒲公英2】

20句

2023年3月25日発

10行2段12ポ桐10

モノリスを埋めて蒲公英咲かせある 蒲公英の盛り踏まるる盛りなり  
蒲公英は線路と柵のその間 蒲公英の旅装は丸く白づくめ  
毎年よ落葉の道に蒲公英黄 蒲公英の穂絮発進準備よし  
蒲公英の踏まれ摘まれて通学路 輪になつて蒲公英の絮ふきあへり  
蒲公英は樺並木のその根元 蒲公英の絮大空へ青空へ  
蒲公英はブロック塀のこちら側 ほしいまま蒲公英の絮吹き消して  
たんぽぽはあけつぴろげにそこかしこ たんぽぽの絮の飛び立つ港町  
蒲公英は原色の花頭を高く 蒲公英の役目を終へし茎の数  
蒲公英にもうやはらかなチョコレート たんぽぽとゆたんぽの夜を同じうす  
蒲公英の乳なめをるは俳人か 蒲公英の絮に見知らぬ町の朝



peace!



たんぽぽ

モトリドエ 2023.3.25

Hi-uni 10B

2018 全然堂歳時記 春【桜1】 take-14 20句

2018年4月11日 12:15

10行2段 桐9

今日こそは晴れて桜の出番なれ 花もまた春剥落といふことを  
ガガーリン少佐の地球桜咲く 身に余る落花を浴びてゐたりけり  
全山は今沸騰の桜かな 花散つて花びらの数増やしけり  
満開の花の余韻と申すべく 花びらや走者一掃せし後の  
半生の住めば都の桜かな 花びらは花の涙かちりぬるを  
欄干の冷たかりける桜かな しくしくと痛むは花か花びらか  
雨のあと風の荒ぶる桜かな 枯草の上の落花となりにけり  
嘘のやうに晴れて花見の水たまり 花冷の銀の落花となりにけり  
僧の名を沢庵と云ふ花の宴花の雨 大きな川の流れゆく  
鬼さんもこちらへござれ花の宴夜にかけて 雷といふ花の雨

氏

リードエンジニア

2018  
4.11

全然堂歳時記春

【桜2】

「桜かな」特集

20句

2022年3月21日発

10行2段14ポ桐9

超然と歳月に立つ桜かな  
尿して子らが逃げゆく桜かな  
ダム底に花を忘れし桜かな  
対岸の二階の灯る桜かな  
鉄橋を塗り替へてゐる桜かな  
昼は鳥夜は猫鳴く桜かな  
遠山の白雪みゆる桜かな  
ぼつてりと夜を孕みし桜かな  
村々の小学校の桜かな  
また一つ篝の消ゆる桜かな  
今はもう住めば都の桜かな  
この先は闇へと続く桜かな  
その中に一本若き桜かな  
いつせいに散つて水面の桜かな  
アスファルト乾き初めたる桜かな  
花びらが花びらを追ふ桜かな  
長き枝の長きを枝垂れ桜かな  
女房も一つ年取る桜かな  
咲き満ちて神を恐れぬ桜かな  
破裂して風船消ゆる桜かな



枝垂れ桜  
夜桜を  
含む

ハードエッジ

2022  
3.21

2021 全然堂歳時記 春

【菜の花】

16句

2021年2月28日発

8行2段12ボ 桐9

菜の花の一尺にして花の数 油屋の主らしきが花菜畑  
菜の花のあげがたの黄の冷たけれ 小さき中洲に花菜さかせて漕ぎ出でな  
菜の花に空は明るくなりにつけり 菜の花に桜の花に風が吹く  
菜の花は黄を着飾りて日当りて 菜の花がゆれて桜は大ゆれに  
花菜畑とは一面の花粉色 曇天に黄色ぶ厚く花菜畑  
菜の花にあらざる花も黄なりけり 明るしや花菜畑もその雨も  
菜の花に何の縁か黄なる蝶 菜の花の中に朽ちゆく戦闘機  
菜の花に地べたの空気甘からむ 菜の花の花を終へたる薄みどり



モ ニート  
2021.2.28

神々の呵々大笑の花吹雪 自転車のお巡りさんの花ふぶき  
花ふぶき給水塔をたてまつる 幼子とぶらんこに乗る花吹雪  
大寺の屋根美しや花吹雪 吹き抜けのジャングルジムに花吹雪  
一陣の討つて出でたる花吹雪 クロスワードパズルの中のはなぶき  
後に続けと遠近の花吹雪 夢の世のホワイトノイズ花吹雪  
一の二の三の四の五の花吹雪 お迎へのタイムマシンの花吹雪  
対岸の花にも届け花吹雪 象の夢ライオンの夢花吹雪  
よく伸びる餅の如くに花吹雪 ライオンが祖国へ帰る花吹雪  
新橋を汽笛 一声花吹雪 花ふぶき次の時代をひらくべく



はなふぶき

モ ニード ハミビキ 2019年4月